



2019年 ジャパンC-G1 / photo: J. Fukuda
Japan Cup (International Invitational) -G1 (2400m)

Fee
200万円
受胎確認後支払
フリーター
特約対象馬

New for
2020

SUAVE RICHARD JPN

スワーヴリチャード 栗毛 2014年生 ノーザンファーム産

ハーツクライ
Heart's Cry
2001 鹿



*ピラミマ
Pirramimma
2005 黒鹿

*サンデーサイレンス
Sunday Silence
1986 青鹿

アイリッシュダンス
Irish Dance
1990 鹿

アンブライドルズソング
Unbridled's Song
1993 芦

*キャリアコレクション
Career Collection
1995 鹿

Halo

Wishing Well

*トニービン

*ビューバーダンス

Unbridled

Trolley Song

General Meeting

River of Stars

Hail to Reason
Cosmah

Understanding
Mountain Flower

*カンバラ
Severn Bridge

Lyphard
My Bupers

Fappiano
Gana Facil

Caro
Lucky Spell

Seattle Slew
Alydar's Promise

Riverman
Star Fortune

Inbreeding None through the fifth cross

主な成績 (His highlight)

馬齢 (Age)	レース名 (Race)	着順 (Result)
2	2歳未勝利 Two-year-old Maiden, Hanshin, 10F	1
	東京スポーツ杯2歳S Tokyo Sports Hai Nisai Stakes, Tokyo, 9F	G3 2
3	共同通信杯 Kyodo News Service Hai, Tokyo, 9f	G3 1
	東京優駿 (日本ダービー) Tokyo Yushun (Japanese Derby), Tokyo, 12F	G1 2
	アルゼンチン共和国杯 Copa Republica Argentina, Tokyo, 12.5F	G2 1
4	金鯱賞 Kinko Sho, Chukyo, 10F	G2 1
	大阪杯 Osaka Hai, Hanshin, 10F	G1 1
	安田記念 Yasuda Kinen, Tokyo, 8F	G1 3
	ジャパンC Japan Cup (International Invitational), Tokyo, 12F	G1 3
	ドバイシーマクラシック Dubai Sheema Classic, Meydan, 12F	G1 3
5	宝塚記念 Takarazuka Kinen, Hanshin, 11F	G1 3
	ジャパンC Japan Cup (International Invitational), Tokyo, 12F	G1 1

重賞初制覇となった共同通信杯を快勝し、世代最強を決める日本ダービーでは勝ち馬に鋭く迫るも2着に惜敗。仕切り直して迎えた秋のアルゼンチン共和国杯では、上り最速の末脚を披露し、一線級の古馬たちを退けた。年が明けた4歳春には歴戦のG1馬たちを圧倒。2000m戦の金鯱賞と大阪杯を連勝しG1初制覇を飾った。初の海外遠征を好走し5歳秋に本格化。府中2400mの舞台でついに頂点に立ち、2つ目のG1タイトルを獲得。

父系 SIRE

父 ハーツクライ 千歳産。3歳～5歳時、日・UAE・英19戦5勝。ドバイシーマクラシック(UAE G1)、有馬記念(JPN1)等。最優秀古牡馬。代表産駒にリスグラシュー(年度代表馬、有馬記念-G1、MVRC W.S.コックス プレート-豪G1)、ヨシダ(ウボワードS-米G1)、ジャスタウェイ(天皇賞(秋)-G1、ドバイ デューティフリー-UAE G1)、シュヴァルグラン(ジャパンC-G1)、アドマイヤラクティ(MRCコーフィールドC-豪G1)、ワンアンドオンリー(日本ダービー-G1)、ヌーヴォレコルト(オークス-G1)、サリオス(朝日杯フューチュリティS-G1)、タイムフライヤー(ホープフルS-G1)、ウインパリアシオン(日経賞-G2)、フェイムゲーム(アルゼンチン共和国杯-G2)。

母系 FAMILY LINE

母 *ピラミマ (by Unbridled's Song) 米国産、わが国で2戦。産駒
スワーヴリチャード(牡 by ハーツクライ) 6勝、ジャパンC-G1、同3着、大阪杯-G1、金鯱賞-G2、アルゼンチン共和国杯-G2、共同通信杯-G3、日本ダービー-G1 2着、東京スポーツ杯2歳S-G3 2着、宝塚記念-G1 3着、安田記念-G1 3着、有馬記念-G1 4着、中山記念-G2 4着、UAE入着、ドバイシーマクラシック-G1 3着。種牡馬
バンドワゴン(牡 by *ホワトマズル) 4勝、但馬S、長久手特別、エリカ賞、きさらぎ賞-G3 2着。種牡馬
 エマノン(牝 by ハーツクライ) 4勝、牝の森特別(2回)
 ルナステラ(牝 by ディーブインパクト) 3勝、石打特別
 ナンヨーカノン(牝 by フジキセキ) 4勝
 カレンオブシス(牝 by サムライハート) 2勝
 ルナシオン(牝 by ディーブインパクト) 1勝

祖母 *キャリアコレクション Career Collection (by General Meeting) 米国産、北米5勝、ワンダラーンS-G2、ソレントS-G2、California Cup Juvenile Fillies S、Love Avie H、BCジュヴェナイル フィリーズ-G1 2着、ハリウッド スターレットS-G1 2着、Cat's Cradle H 2着、Fremont H 3着、ラス ヴェイルヘネス-G1 4着。産駒
 コスマライセス：入着、岩手(公) 1勝。産駒
 ルタンブル：2勝、忘れな草賞-L 2着

曾祖母 リヴァー オブ スターズ River of Stars (by Riverman) 米国産、北米1勝。産駒
マラーキズ Maraakiz：英4勝、トルコ1勝、豪1勝、VRCザ ダルゲッティ-G2 2着、VATCクーンジーH-G3 2着、AJCクイーン エリザベスS-G1 3着
 イクリジアスティス Ecclesiastes：北米1戦。産駒
センチュリー パーク Century Park：北米3勝、サンタ イサベルS-G3、California Cup Distance H、ハリウッドC.ラムザー シニアH-G3 2着
レーシング アプティチュード Racing Aptitude：北米4勝、Arther I. Appleton Juvenile Turf S、Tampa Turf Classic S 2着
ノース ロデオ North Rodeo：北米3勝、Fleet Treat S 2着、ハリケーン パーティS-G3 3着、California Cup Distaff H 3着
 スパークリング スター Sparkling Star：北米3戦。産駒
マイナー ディテイルズ Minor Details：北米4勝、Blue Norther S-L、Providencia S 2着、ラモナH-G1 3着、ハニムーンH-G2 3着、La Habra S-L 3着

* 印は外国産馬で日本に輸入された馬
 ※ 現役馬の成績は2020年1月19日現在のものです。



ステッキー発!
上り最速で重賞初制覇

2017年 共同通信杯-G3 / photo:Keiba Book
 Kyoto News Service Hai-G3 (1800m)



ノーステッキーで上り最速!
古馬との初対戦も
苦にせず

2017年 東京優駿
(日本ダービー)-G1 2着
 photo:J.Fukuda
 2nd Tokyo Yushun
(Japanese Derby)-G1 (2400m)



勝ち馬に鋭く迫るも惜敗

2017年 アルゼンチン共和国杯-G2 / photo:H.Suga
 Copa Republica Argentina-G2 (2500m)

2018年 金鯱賞-G2 / photo:Keiba Book
 Kinko Sho-G2 (2000m)

グランプリホースを完封!

1番人気に推された初のマイルG1
惜しくもレコードタイ決着の0.1秒差

2018年 安田記念-G1 3着 / photo:Keiba Book
 3rd Yasuda Kinen-G1 (1600m)



5頭のG1馬たちを
向こう正面からひと捲り
早め先頭から後続を
置き去りにしてG1初制覇

馬場不問の
パフォーマンスで、
タフコンディションも問題にせず
悲願であった府中2400mの頂点に